



特集にあたって

全学教育機構 学務情報部門 協力教員 大島 勇 人
(医歯学系)

昨年4月に新潟大学に全学教育機構が設置されました。これまでの「学部教育」から「学士課程教育」への実質化を進めると共に、教育資源をさらに有効に活用することを目的に、それまであった全学共通科目と専門科目の科目区分を撤廃し、実験や演習など一部の科目だけを除いた全授業科目が、原則として全学生に開かれた「全学科目」とし、新たな学士課程教育システムの構築を始めるところを目指しております。この改革は五十嵐キャンパスだけの改革ではなく、私たち旭町キャンパスにも関わる改革として認識する必要があります。

一方、歯学部においては平成12年度から新教育課程を実施しております。すなわち、問題発見解決型学習を教育課程編成の核とし、導入教育として全学的に行っている大学学習法で習得した思考過程と技能を基盤とした歯学専門教育課程を編成しております。そしてこの度、歯学部が提案した「学生主体の三位一体新歯学教育課程～社会に貢献する包括的歯科医師の育成を目指して～」が平成18年度「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に採択されました。今後は、歯学部が推進してきた教育改革を全学教育機構が取り組んでいる学士課程教育システムの改革にもフィードバックし、また歯学部としても全学の教育資源を有効に活用することも考えていく必要があると思います。

さて、学士課程教育システムの改革を実効化するためには、アクションプランの作成と共に教育インフラの整備も必要になります。本年8月には新学士課程教育を支える全学教育支援システム(新学務情報システム)が稼働されました。歯学

部の教員にとってはあまり馴染みがないかも知れませんが、五十嵐における「いわゆるGコード科目」(以前の全学共通科目)を担当している教員はこれまでも学務情報システムを利用してきただけです。この学務情報システムが副専攻制度や分野・水準表示法等の本学が取り組む新しい学士課程教育を実施するように新たなシステムとして生まれ変わりました。また、五十嵐キャンパスと旭町キャンパスの地理的な問題を解決するためには、既存のLANを利用して五十嵐キャンパスと旭町キャンパス間でリアルタイムの双方向授業を可能にする新授業システムの導入が決まっております。

本特集では、「新学士課程教育を支える新学務情報システム」について、全学教育機構学務情報部門の先生方にご寄稿頂き、8月稼働の新学務情報システムを歯学部教職員、学生に広く周知し有効利用の一助とすると共に、全学教育機構ならびに学務情報部門の活動を歯学部で紹介することを趣旨としております。まず、最初に部門長の本竜 徹先生(自然科学系)から「全学教育支援システムの構想について」紹介して頂き、具体的な新学務情報システムの中身については副部門長の五島 譲司先生(専任教員)より説明して頂きます。また、歯学部の教員のほとんどは旧学務情報システムを使っておりませんが、本システムに長い間関わって来ましたが協力教員の永井雅人先生(人文社会・教育科学系)より「学務情報システムに関わってきて」についてご寄稿頂きました。これを機に多くの教員の皆様、学生諸君が新学務情報システムを有効利用して頂くことを切に願っております。



全学教育支援システム（統合型学務情報システム）の構想について

全学教育機構 学務情報部門 部門長 木 竜 徹
(自然科学系)

新潟大学では、平成16年4月の国立大学法人新潟大学の発足にともない、中期計画・中期目標の策定にあたり、教養教育に資する科目と学部専門科目とを区別するのではなく、学士課程全般を通じて履修できる「全学科目」と位置づけ、有機的に学士課程全般を通じて新構想教育システム構築の方針を決定しました。

この新潟大学の新構想学士課程教育を円滑に実施するためには、全学の学士課程教育に関わる5,500を超える講義科目を管理し、学生、教職員が教育全般を任せられる新たなシステムが必要になります。この際、あらたに講義科目を分野（カテゴリ）と水準（内容のレベル）で分類する事で、例えば、学生は自らどのような科目を組み合わせ履修を進めたら良いかを理解しながら、勉学を進める事ができる様になる事が期待されます。つまり、副専攻制度等の新たな教育プログラムの展開や、自らの習熟度に応じたカリキュラムの選択といった展開も可能となります。以上の様な新構想学士課程教育を支えるのが、統合型学務情報システムです。

さて、従来のシステムとの大きな違いは、学務情報、教務情報を中心に教育に関わるすべての情報を統合して取り扱える点にあります。統合型学務情報システムは、おおざっぱには学務関係の巨大なデータベースと、それらを有機的に結びつけ提示する様々なプログラムからなります。そして、いつでも、どこでも、だれでも直感的に使えるWebベースの操作系が特長です。

今回サービスを開始した統合型学務情報システムは、そのままで、これまで以上の機能を持ちますが、今後、さらに新たに機能開発する場合もそれほど難しくなく行える構造になっています。これによって、総合大学の多様性のメリットを最大限に生かして、新たに講義科目を有機的に組み合わせたカリキュラムを作る事も可能になります。

最近はすべての情報が電子化され、流通しているため、最新バージョンの書類を個人個人が管理する事が面倒になってきています。例えば、googleが提供するWebメール(Gmail)では、メールを分類する事はせずにすべて巨大なメールボックスに入れておき、検索機能を駆使して必要なものをその都度探し出すスタイルを提案しています。統合型学務情報システムを使えば、成績の履歴管理、シラバス、教材の保管など、教育に関する情報はすべてこのシステムでまかなう事ができます。個別のPCではセキュリティの問題や面倒な管理が発生してしましますが、統合型学務情報システムに任せていただければ、わずらわしい状況に陥る事態も少なくなります。このメリットは大きなものがあります。一度でも、<https://ness.niigata-u.ac.jp>へアクセスし、講義に使っていただければ、統合型学務情報システムの良さがすぐにおわかり頂けると思います。統合型学務情報システムが、皆様にとって、質の高い教育に専念して頂けるホームグラウンドとして評価していただける様になりますことを願っています。



統合型学務情報システムの構築 ～ 8月稼働開始！～

全学教育機構 学務情報部門 副部門長 五島 讓 司
(専任教員)

1 開発スケジュール

全学教育機構学務情報部門は、新潟大学の新しい学士課程教育の実施を強力に支援する新しい統合型学務情報システム（全学教育支援システム）を構築し、その管理と改善を行うこと、ならびに、本学における教育に関する情報を広く学内外に発

信することを、主たる業務としています。

当部門では、平成17年6月より本システムの開発を開始し、開発業者であるNTT データ九州との打ち合わせや総合運転試験（ランニングテスト）等を経て、平成18年8月より本システムを稼働（サービス開始）する運びとなりました。

全学教育支援システム開発スケジュール

平成17年6月	システム開発開始
平成18年2月～4月	（総合試験）
平成18年5月	ハード導入
平成18年6月～7月	ランニングテスト
平成18年8月1日(火)	納入（システム開発期間14か月確保）
平成18年8月2日(水)	稼働（旧システムと並行稼働）
平成18年12月末	システム全面切り替え実施
平成19年1月	（総合情報処理センターシステム更新）

2 システムの概要

の「新構想教育システムの構築」にて、以下のよう
に述べられています。

全学教育支援システムの概要については、本学

4. 全学教育支援システムの概要（「新構想教育システムの構築 新潟大学」より）

(1) 教育改革におけるシステムを実現するために

新潟大学の「新構想学士課程教育の実施にあたっては、その機能を十分に発揮するために、ITシステムに支援された強力な統合型学務情報システムを新たに構築して、運用する必要がある。

すなわち、現在稼働中の学務情報システムは、毎年大改修を行いながら運用しているのが実態であり、新たなベンチマークプログラムやオーナーズプログラムを取り込む余裕は全くない。

このため、新たな学務情報システムの更新と共に、新たな教育改革プログラムを運用できる強力な統合型学務情報システムを新構築する。

このシステムの稼働により、教育改革推進に必要な情報処理機能の高性能化を実現し、全学教育機構の成員である教職員・学生に総合的情報サービスを提供することができる。その結果、ワンストップサービスをはじめとする教育全般・大学運営を支援する情報の提供が可能となる。

(2) システムが提供すべき機能

① 現学務情報システムが処理中の情報

a) 授業情報：シラバス、等

- b) 学生情報：健康管理、学生生活支援
- c) 教務事務のための情報：成績・学籍管理、等
- ② 新規に提供するシステムの機能・情報
 - a) 当面提供すべき機能：新授業科目管理システム
 - i) ベンチマークプログラムの運用情報：水準・分野のデータベース、科目体系
 - ii) オナーズプログラムの運用機能：修了判定システム、授業時間割システム
 - iii) 新プログラムの学習モデルと履修・授業計画支援：全ての授業科目の水準と分野を考慮した立体的な副専攻履修モデルの構築、科目の相互関係の解析、等
 - iv) e-Learning と連携した自学自習システムの構築：専門教育に必須な科目を履修しない学生や2006年に懸念されている低学力学生への補習学習ソフトの開発、意欲的学生の予習・復習のための学習内容提供、等
 - v) 開かれた大学推進：市民開放授業、公開講座、等 e-learning による遠隔講義を積極的に活用し、新たな大学開放を実現する。
 - b) 将来的に提供すべき機能：大学運営と教育のための経営戦略支援
 - i) 学外連携：国内外大学との連携、単位互換等を e-learning システムにより実施する。
 - ii) 教育戦略立案に資する情報：学生に関する多角的情報（在学生・大学進学予定者の意向調査）、等
- ③ システム／データ連携

大学運営を総合的に支援するため、下記のシステム連携し、統合的に情報を活用する必要がある。

 - a) システム連携
 - i) e-Learning システム：履修管理、在宅学習管理等で連携
 - b) データ連携
 - i) 入試システム（学部、大学院）
 - ii) その他（図書管理システム、人事管理システム、財務会計システム、同窓会システム）

本システムの運用により、「豊かな教養と高い専門知識を修得して時代の課題に的確に対応し、広範に活躍する人材を育成する」という本学の教育目的を実現するために、総合大学である本学が有する豊かな教育資源を活かして、多様な学習経歴や学習ニーズを有する学生に対し、各自の関心や習熟度に沿った主体的・系統的な学習を促し、確固たる基礎学力、幅広い識見や倫理性・社会性を修得させることを目的としています。

3 新規に提供するシステムの機能・情報（例）

(1) ベンチマークプログラムの運用情報

分野・水準表示法（ベンチマークシステム）は、新潟大学五十嵐キャンパスの7学部（医・歯学部を除く）で開講されている全ての科目に、分野と水準を示すコードを统一的に付けるものです。これにより、全学共通科目、専門科目を問わず、また、開設学部・学科等を問わず、新潟大学の全開設科目を分野別一覧表の形で見るができます。科目には水準を示すコードが付してあるので、各科目の難易度を明確に把握し、科目の相互関係や体系性を理解することができます。

全学教育支援システムでは、これら分野・水準

（および名称）のデータベースを有しており、分野・水準をキーにした授業科目やシラバスの検索・閲覧が可能です（複数の科目から構成される科目についても、それぞれの科目の分野・水準を表示することができます）。このため、分野・水準に基づく科目体系等の解析が可能となっています。

(2) オナーズプログラムの運用機能

副専攻制度（オナーズプログラム）は、所属学部学科の学位とは別に、特定分野の学習成果を認証する制度で、当該専門分野以外の特定分野科目を一定単位数以上取得した学生に、その勉学の認証を付与する制度です。

全学教育支援システムでは、副専攻科目についても、他の（従来の）科目と同様の運用が実現します。すなわち、副専攻テーマ（課題別・分野別）およびテーマ毎の科目のデータベースを有しており、履修したい副専攻テーマ（分野別・課題別）を選択したり、履修科目の成績一覧や修了要件の達成状況を表示・確認したり、認定申請書のダウンロードや証明書の発行が可能となっています。

(3) ユーザインターフェース～ポータル^(*)～

全学教育支援システムでは、ユーザインターフェースの向上を目指し、統一的な認証を導入した

ほか、ポータル（システム）ログイン後のホーム画面では、ユーザに関係する情報（のみ）を集約的に見せることで、「見たい情報がすぐに手に入る」ようにしたり、ユーザ毎に画面を好みのレイアウト（画面配置）にカスタマイズしたりできます。

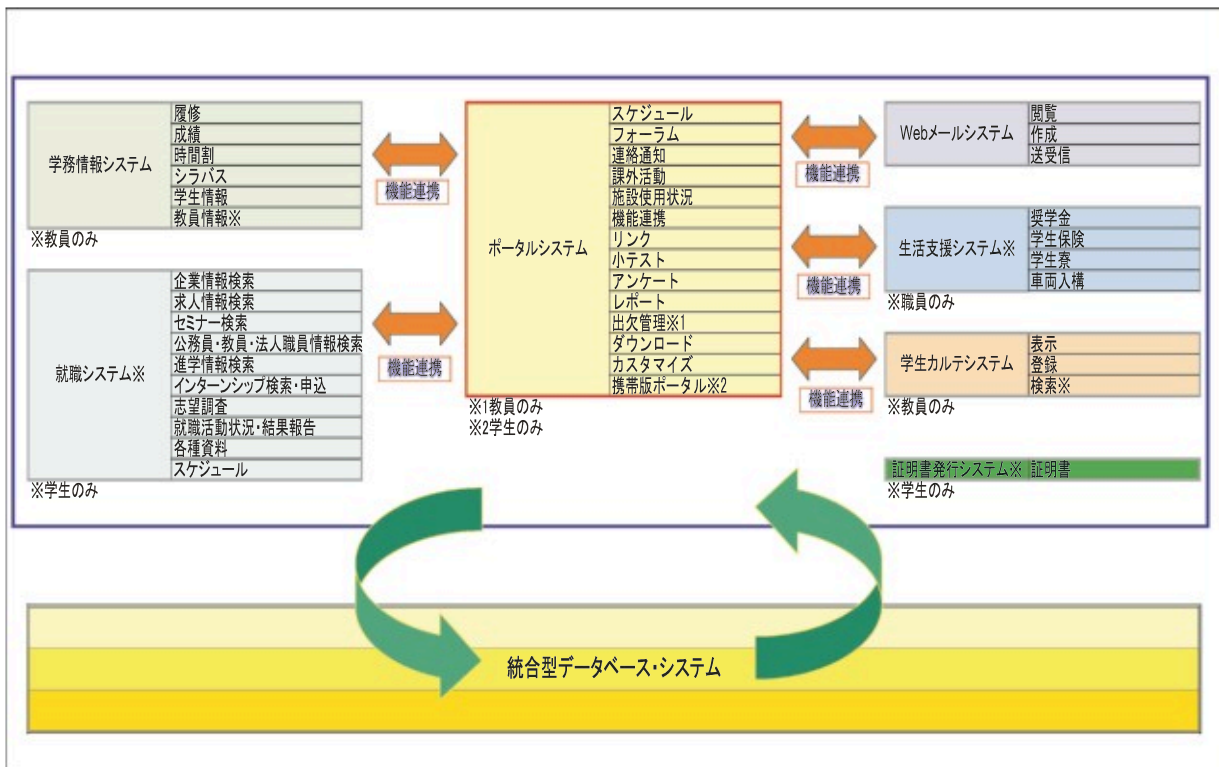
このシステムの稼働により、教育改革の推進に必要な情報処理機能の高性能化を実現し、新潟大学の成員である教職員・学生のみなさまに、ワンストップサービスをはじめとして、教育活動全般を支援する総合的な情報サービスを提供することが可能となります。

（※）ポータル（Portal）とは、システムの表玄関という意味で、システムを利用するとき最初に入る“入口”です。ポータルから一度ログインすることにより、さまざまな機能（連携するシステムも含む）を利用することができます。

（4） 包括的な教育支援態勢の構築～学生カルテ・統合データベース～

従来は、個々のシステムにデータベースが散在し、システム間でのデータベース同士の連携に難がありました。全学教育支援システムでは、各サブシステムが参照するデータベースを集約し、情報を一元的に管理することが可能となります（統合型データベース）。また、全学教育支援システム以外のシステムのデータや、他の機関で登録したデータ、個別に管理しているデータ等も集約して管理でき、さまざまな角度からデータとして取り出し、分析することが可能となるほか、情報の（画面表示）項目の追加もできるようになっています。

このため、複数の（サブ）システムに散在する、一人ひとりのユーザ（学生）に関連する情報を集約して参照することができるようになり（学生カルテ）、従来は、教員が指導学生の情報を断片的にしか参照できなかった不便さが解消され、よりタイムリーな情報が参照可能となります。



全学教育支援システム概念図

新学務情報システム早わかりガイド

全学教育機構 学務情報部門 副部門長 五 島 讓 司
(専任教員)

1 システムの特長～ポータル^(※)～

新潟大学では現在までにさまざまなITシステムが稼働していますが、セキュリティのため、各システムでそれぞれユーザ認証を行っています。この場合、システム毎に違うIDとパスワードが割り当てられることになり、新しいシステムが稼働する度に管理すべきIDとパスワードが増えており、ユーザ個々での管理が難しくなっています。

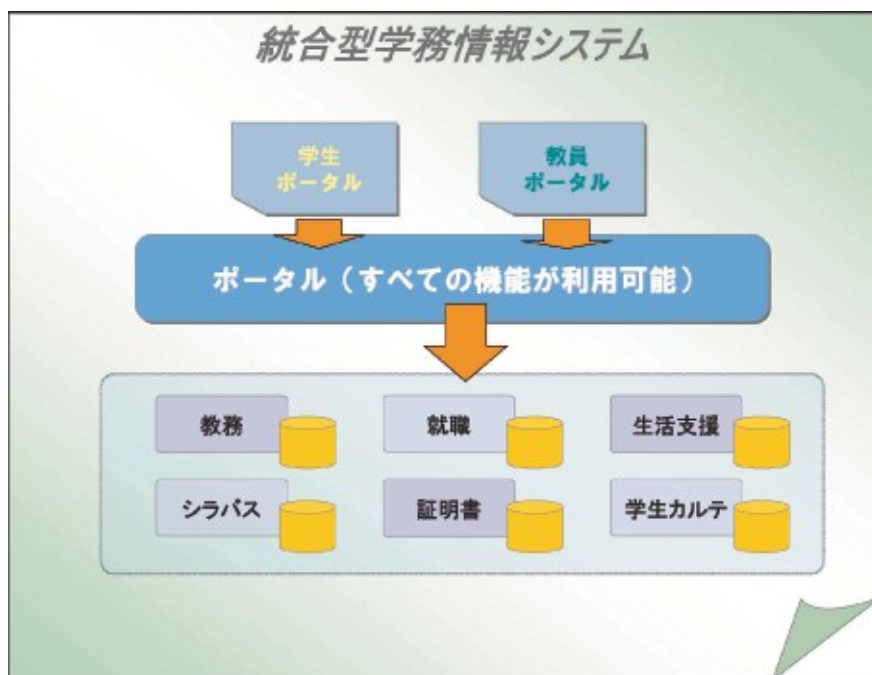
新しい学務情報システムでは、一度認証を済ませれば、利用可能な(すべての)機能を使うことができる仕様となっています。具体的には、ポータルシステムから一度ログインすることで、学務情報システムをはじめとした関係するシステム・

機能を、その都度ログインする必要なく利用することができるようになります(ただし、新学務情報システムと連携せずに、従来そのまま運用されるシステムについては、本システム稼働後も引き続き、別途ログインすることになります)。

(※) ポータル(Portal)については前ページを参照。

ポータル(システム)ログイン後のホーム画面では、ユーザが履修(担当)している授業関係のスケジュールや連絡通知等を表示し、ユーザに関係する情報(のみ)を集約的に見せることで、「見たい情報がすぐに手に入る」ようになり、ユーザ毎に画面を好みのレイアウト(画面配置)にカスタマイズすることもできます。

また、とくに、メニュー間のリンク(画面遷移)



ポータルシステムのイメージ
(ポータルから各機能・システムが利用可能)

◎新システムにログインすると本画面が表示されます(画面は見本です)。

◎画面のレイアウトを設定できます。

◎レポートについての情報が表示されます。

◎授業や大学のリンクが表示されます(自分用のリンクも設定できます)。

◎授業やその他の連絡が一欄で表示されます。

◎フォーラムの情報が表示されます。

◎学内スケジュールは「イベント」欄に表示されます。

◎自分のスケジュールを登録できます(教員の授業時間割も参照できます)。

◎授業毎に「連絡通知、アンケート、小テスト、レポート、フォーラム、ダウンロード、リンク、出欠情報」が表示されます。

◎スクロールすると、小テスト以降の項目が表示されます。

ポータルで利用できる機能

項目	内容
ホーム	自分に関する情報（週間スケジュール情報、リンク情報、連絡通知情報、提出物情報など）が一覧表示されます。ホーム画面で最新情報を見ることができるので、ポータルにログインするだけで自分に関連のある最新情報を確認することができます。
スケジュール	個々の個人スケジュールを自由に登録できます（教員のスケジュールは学生からも確認できます）。
フォーラム	意見・質問・相談など情報交流ができる電子会議室です。大学全体、学部、学科、コース別、授業科目別などの任意のユーザ同士でのフォーラムを開設することができます（教員は授業科目別フォーラムのみ開設可能、学生は参加対象のフォーラムに参加のみ可能）。
連絡通知	休講や教室変更などの連絡事項をポータルを通して通知・確認することが可能です（学生は確認のみ）。
課外活動	大学公認クラブ・サークル全体のスケジュールを登録することができ、登録された団体に所属する学生及び教員は、自身のスケジュール表上で登録された内容を確認することができます。
施設使用状況	大学内の各施設の使用状況（予約状況）を月間カレンダーで確認できます。
機能連携	教務システム、生活支援システム、就職システム、CampusEyes、メールシステムを利用することができます。なお、これらのシステムへログインするためにユーザが再度IDとパスワードを入力する必要はありません。
リンク	大学や履修している授業で指定したインターネット上のサイトへのリンクや、個人ごとのお気に入りサイトなどを追加登録・削除できます。
小テスト	WEB上で小テストを行うことができます。小テストは履修者のみを対象とした授業科目別のテストです。設問は自由に設定でき、選択式や自由記述式にも対応します（学生は回答のみ）
アンケート	任意の利用者を対象とした共通のアンケート（共通アンケート）と、履修者のみを対象とした授業科目別のアンケート（授業アンケート）がWEB上で行えます。設問は自由に設定でき、選択式や自由記述式にも対応します（教員は授業アンケートのみ作成可能、学生は回答のみ）。
レポート	教員の設定した課題に対して学生が作成したレポート（ドキュメントファイル）を、WEBを通じて教員へ提出することができます。
出欠管理	教員が自身の受け持つ授業に対して出欠の管理をすることができ、学生別の出席状況を一覧で閲覧することができます。
ダウンロード	大学生活や授業で必要になる各種ドキュメントを、ポータル上のダウンロードセンターに登録することができます（教員は授業関連資料の登録のみ）。登録されたファイルはダウンロードして活用できます（学生はダウンロードのみ）。
カスタマイズ	ポータル画面のデザイン・レイアウト変更や、パスワードの変更などを行うことができます。カスタマイズで設定した内容は、自身のポータル画面にしか反映されませんので、自分好みにカスタマイズすることができます。
ポータル携帯	学生のみ利用することができます。学生携帯ポータルでは、最新情報や連絡通知の閲覧だけでなく、携帯電話向けに作成された小テストやアンケートにも回答することができます。 http://mobile.ness.niigata-u.ac.jp/

に関して、個々のユーザの作業特性に対応し得る構成となっていることが特長です。

例えば、学生がレポートを提出するまでに、以下の手順を踏むことが考えられます：

「ポータルにログイン」→「教員からのレポートのお知らせを閲覧」→「詳細内容をメールで確

認」→「レポートの評価方法を確認」→「関係資料のダウンロード」→「グループで課題に挑戦」→「レポート提出」→「教員からのフィードバックを確認」

このとき、それぞれの機能、すなわち、「連絡通知」、「メール」、「ライブラリ」、「フォーラム」等

がそれぞれ独立した（相互に連絡しない）画面遷移であると、利用する機能が変わるたびに、元の画面に辿り直す必要がありますが、ポータルシステムでは、履修している授業毎の情報をまとめて表示する「授業カード」があり、該当授業の「授業カード」に遷移することで、上記のような手順にも速やかに対応（画面遷移）することが可能になります。

教員にとっては、ポータルにログインすれば、担当授業に関わる一連の教育活動（学生への連絡、出欠管理、講義資料の掲載、小テスト・レポート・アンケートの実施等）が行え、学生にとっても、ポータルにログインすれば、授業に関わる一連の情報（教員からの通知や講義資料等）を参照したり、作業（小テスト・レポート・アンケートの提出等）を行ったりすることができます。

このように、ユーザインターフェースが格段に向上し、ワンストップサービスが実現した新しいシステムは、これまでの機能に加えて、ポータルを通じて、必要な情報がすぐに見られるようになる等、大変便利になりますので、積極的に活用してみてください！

2 システム利用上の注意

【重要】〈学外からの新システムの利用〉

新学務情報システムは、学内からであれば、（利用可能な）すべての機能が利用できます。学外からシステムを利用する場合は、セキュリティを考慮し、VPN（Virtual Private Network）を利用した接続のみ許可していません。

VPNを利用する際は、個人PC接続用アカウント（NU-CAMPUS）とVPNクライアントソフトウェアが必要です（すでにお持ちの場合は、改めて手続きする必要はありません）。

・個人PC接続用アカウント（NU-CAMPUS）は下記を参照して取得してください。
〈磁気付学生証をお持ちの方〉

総合情報処理センター B 棟 1 F 実習準備室
もしくは医歯学図書館（旭町分館）内の「アカ

ウント発行機」で、画面の指示に従ってアカウントを取得してください（学生証が必要になります）。

〈ラミネート加工の学生証をお持ちの方、教職員の方〉

総合情報処理センター事務室に直接お越しいただくか、申請書を学内便またはFAXでお送りください。（申請書は総合情報処理センターWebページにて入手できます）。

<http://www.cc.niigata-u.ac.jp/download/>

・VPNクライアントソフトウェアのダウンロードについては、総合情報処理センターWebページ「VPN接続の手引き」を参照してください。

<http://www.cc.niigata-u.ac.jp/service/vpn/>（VPN接続の手引き）

【重要】〈学外からのメールの利用〉

・学外PCからのメールシステムの利用

新学務情報システムでは、ポータルを経由してメールシステムを利用する場合、学外からはVPN接続が必要になります（学外からメールソフトで利用する場合も、VPN接続が必要です）。

VPN接続が利用できない場合、以下のURLにアクセスすると、学外からもメールシステムが利用できます。新学務情報システムのIDとパスワードでログインしてください。

<https://mail.cc.niigata-u.ac.jp/>

・携帯電話からのメールシステムの利用

新しいメールシステムでは、携帯電話からも直接、メールを利用することができます。下記URLにアクセスし、新学務情報システムのIDとパスワードでログインしてください。

<http://mail.cc.niigata-u.ac.jp/i/>
(I-mode, eZWeb^(*))

<http://mail.cc.niigata-u.ac.jp/j/>
(J-Phone)

(※) eZWeb の一部の機種 (ブラウザ種別が「HDML」になっている機種) では、上記 URL では動作しない場合があります。その際には、下記 URL をご利用ください。

<http://mail.cc.niigata-u.ac.jp/ez/index.html>

お持ちの機種が該当するかどうかについては、下記の Web サイトをご参照ください。

http://www.au.kddi.com/ezfactory/tec/spec/new_win/ezkishu.html

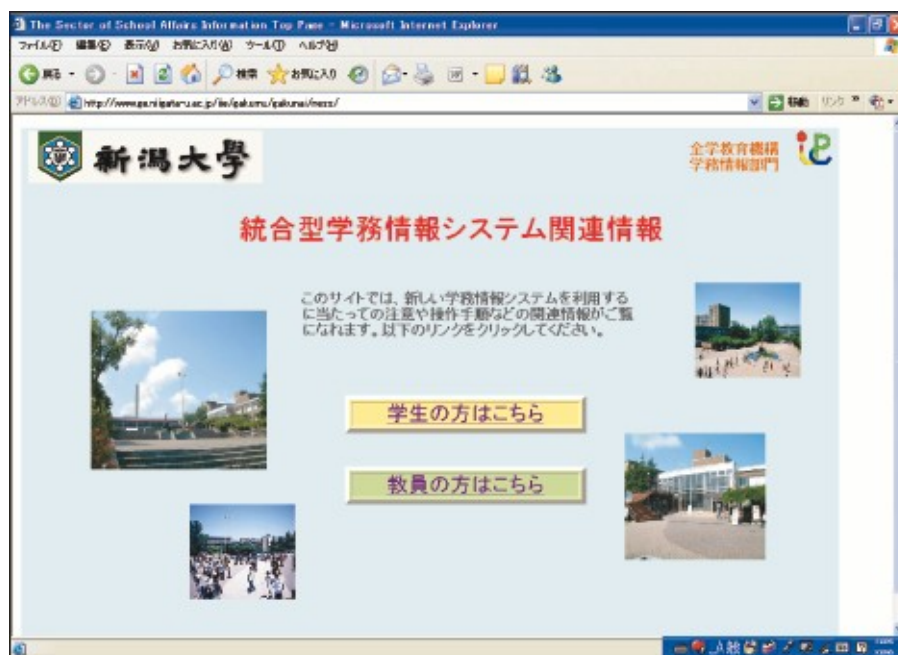
3 新システム関連情報 Web サイトのご案内

学務情報部門では、各種操作手順等、新学務情報システムに関連する情報をご参照いただける Web ページを設置しております。順次、掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

新学務情報システム関連情報 URL :

<http://www.ge.niigata-u.ac.jp/iie/gakumu/gakunai/ness/>

(学内参照のみ)



全学教育機構 学務情報部門
〈新学務情報システム問い合わせ窓口〉
E-mail: support-ness@ge.niigata-u.ac.jp





学務情報システムに 関わってきて

全学教育機構 学務情報部門 協力教員 永井 雅人
(人文社会・教育科学系)

この7月まで使われていた旧学務情報システムは2002年4月から稼働を始めました。私自身は、この時期から学務情報システムに関わりだしたのですが、当初は、システムそのものに不安定な部分もあり、混乱が見られましたが、こうした点も徐々に改善されていきました。私が一番心配していたのは、このシステムは使える学生だけが使えばよい、あるいは使い方を徐々に覚えていけばよいというものではなく、入学後、講義が始まったならば直ちに履修登録などに全ての学生が使わなければならないシステムであるという点でした。2003年からは、PCの操作に不慣れな学生を対象として、入学式前日にPCの操作法についての講習会を行い、各学部の新入生ガイダンスでも、学務情報システムの説明が行われましたので、基本的な操作について、学生が混乱するということは余り見られなくなりました。学務情報システムを使った履修登録などの操作はそれ程難しいものではありませんから、指定したホームページを見ることができるといった程度の、ごく初歩的なPCの使い方さえ知っていれば、後はこのシステムに関する簡単な説明を聞いた上で実際に試してみることで、ほとんどの学生が問題なく使えているようです。

2002年の10月に行われた学生生活実態調査（2年生以上は、前年まで従来の方法で履修申請などを行っていたこととなります）においても、五十嵐地区の各学部では6～8割程度の学生が学務情報システムにおける履修申請・確認は便利な機能だとしています。

私が行っている講義（主に1年生が対象で、2/3は経済学部の学生ですが、残り1/3はそれ以外の学部の学生が聴講しています）において、学務情報

システムについては要望があれば書くように指示したところ、履修申請などについては特に指摘はなく、上がった意見としては、「自宅から成績が見られないのが不便である」、「掲示情報の中から自分に必要な情報を見つけにくい」、「従来からある紙の掲示板にはあるが、学務情報システムの掲示情報に無いものがある」などでした。1つ目に関しては、新しい学務情報システムではVPNという機能を使うことにより、自宅から見るができるようになりましたし、2つ目についても、例えばある講義を聴講している学生だけに情報を送るといった機能が付いたことなどにより、だいぶ改善されるだろうと思います。最後については、学務情報システムの問題というよりも、教員側が十分に学務情報システムを活用していないことが原因でしょう。教員側が思っている以上に、学生の方は学務情報システムに馴染んでいる感じがします。また、今年度寄せられた感想で特徴的なものとして、「重いシラバスを持ち歩く必要がないので便利だ」というのがかなりの数ありました。これはもちろん学務情報システムの機能であります。ここ数年、全学的にシラバスの内容を改善してきた結果でもあらうと思われま

す。新しいシステムでは、レポートの提出など追加された機能もありますが、それ以上に、従来からある機能が、より使い勝手が向上したものと感じています。こうしたシステムをより便利なものとしていくためには、学生・教員・事務サイドのそれぞれが、（最初は面倒に感じる部分もありますが、少し無理をしても）積極的にシステムを活用し、相互連絡などのために、このシステムの位置づけを高めていくことが重要だろ